

川崎市市制100周年記念事業・全国都市緑化かわさきフェア実行委員会
第9回 市制100周年幹事会 摘録

日時：令和6年6月5日（水）10：30～12：00

場所：川崎市役所本庁舎201会議室

出席者：幹事長 川崎信用金庫 浅岡部長

副幹事長 富士通株式会社川崎工場 松本シニアマネージャー

幹事 川崎商工会議所 向田担当部長

株式会社 チッタ エンタテイメント 若井課長

かわさき市民放送株式会社 大西社長

社会福祉法人川崎市社会福祉協議会 荻野課長

一般社団法人川崎市観光協会 北嶋主任

新百合ヶ丘エリアマネジメントコンソーシアム 内藤事務局長

日本電気株式会社玉川事業場 中山主幹

味の素株式会社川崎事業所 森次長

事務局：小池事務局長、金井事務局課長、石井事務局課長 他

コアメンバー：味の素株式会社 内山氏

富士通株式会社 池田シニアマネージャー

株式会社ホリプロ 須之部副部長

（敬称略）

1 開会

2 議事

議案第1号：鉄道事業者等との連携による駅周辺のみどりの創出について
一事務局より資料2を用いて説明

浅岡幹事長：予算感は大体どのくらいでしょうか。

事務局・藤井課長：使途未定額の範囲の中で、今、年度後半におけるイベントを100周年さんの方で検討されていますので、そこを調整しながらになりますけれども、1,000万円～3,000万円ほどで調整しているというところです。

内藤委員：駅としては、資料にある主要会場の3駅だけでしょうか。緑化フェアに向けて、色々な区で緑化フェアに向けて取組をしているところもあると思います。新百合ヶ丘では、緑化フェアに合わせて地域のイベントとしてデッキ上に花を飾るなどの取組を予定しています。

メイン会場だけでなく、もう少し幅広い目で、川崎全体で、この緑化フェアを盛り上げていくということを検討していただきたいと思います。

事務局・藤井課長：メイン会場は3会場ですので、そこを中心としているためこのような形としましたが、鉄道各社さんとも、メイン会場はないが市内で拠点となっている駅については、取組について調整させていただいております。

森 委員：限られた予算の中で優先順位をつける必要があるため、最後はご判断かなと思いますが、現段階でのイメージの金額からすると、果たしてそこまでかける意味があるのか悩ましいと感じています。他のイベントの予算と比較してみても相当高額だなというのが正直な印象です。

100周年ということで今年大いに盛り上げるという観点からするとまったくもって賛成なのですが、一方で2027年に予定されている園芸博覧会のことを考えると、そこに向けた様々な“橋渡し”も当然必要になると思います。100周年である2024年はすごく盛り上がったが、2025年、2026年はどうしていくのか、特にみどりに関しては2027年に向けてどのように仕掛け、盛り上げていくのか、とても大事なテーマだと思います。そのような観点でもう少し中長期での取組みを意識することが重要ではないかと思いました。

そのためにある程度のお金を掛けるということであれば説得力があるような気がしますが、単発でこの期間だけということだと少しバランスが悪いのではないかと、私個人としては思います。

浅岡幹事長：予算を来年度以降に持ち越すと、色々な税務上の課題があると伺っているんですが、その辺りはいかがでしょうか。

事務局・石井課長：予算の方が今、「使途未定額」として約5,000万円ありまして、令和7年以降も使うことができないか検討はしておりますが、どのような処理で次年度以降も使えるかについてはまだ明確には決定出来ていない状況です。ただ、我々事務局の中では、協賛金については有効的に、すべてを使いたいという気持ちと、後継の令和7年以降の事業についても非常に重要だと思っているので、それにつないでいきたい、何らかをしていきたいと考えていますので、引き続き検討していきます。

浅岡幹事長：おそらく委員の皆さんが一番懸念されているのは、余ったから使うというという発想ではなく、目的があり、そこに効率良く支出していくということかと思います。また、事務局もそこは十分にご留意頂いていると思いますし、来年度以降も税務上の問題をクリアしながら残す方法はないかという事で色々模索して頂いているかと思います。

未確定事項が多いなかで、幹事の皆様にはまず方向性だけ承認をいただいて、事務局の方で詳細を検討した上で、ご裁定を頂くというような方向性でいかがでしょうか。

一同異議なし

では、今の皆さんのご意見を検討頂きながら進めて頂ければという事でお願い致します。

議案第2号：みどりの共創プロジェクトについて

—事務局より資料3を用いて説明

大西委員：広報事業のところですが、これをもっとブランディングしていく、広報していくということ自体に異論はないんですが、具体的な内容をもう少し教えていただけますか？この事業にとってどういったブランディング戦略がありそれをどう実行していくのか。そして、この100万円というのが妥当なのかどうか、そのあたりをもう少し伺ってもよろしいでしょうか。

かわさき生活クラブ生協・福本：今、コンサル会社と共に、来年度以降、私たちはどうあるべきかというところの再定義から、MVV（ミッション・ビジョン・バリュー）をみんなで今決めていっている段階なんですけれども、それが決まりましたら、もしかしたらこの「グリーンハックかわさき」という名前も2024年度だけにして、2025年度からは違う名前にするか、途中で切り替えるか、ネーミングからのもう一回、再度コンセプトを決め直し、そのロゴを作ったり、それを広報するようなパンフレットを作ったり、そして、これから仲間を集めていきたい、同じようにやっていく団体も集めたい、それに参加する市民も集めたい、来年からの私たちの事業をするのに大事な協賛を集めていくための広報グッズなどを作っていくなど、果たしてそれがどこまでお金が膨らむか分からないんですけれども、そのうちの最低限を確保しておきたいというところで一旦、この金額を決めさせて頂いています。

大西委員：コンサル費用はこの100万円に含まれているという事ですね。

事務局・矢口課長：協賛企業を募るため、セールスシートの作成などは市の業務には入っておりませんので、切り分けて今回計上をしております。

大西委員：チラシやパンフレットを作る、というお話だけですと100万円という金額規模感は大きすぎる印象もありましたので、どのくらいの規模を想定されているのかという話も伺ってみたのですが、ここには、セールスシートを作ったり、コンサル含めた人件費なども含まれているという理解でよいでしょうか。

かわさき生活クラブ生協・福本：そうです。もしかしたらコンサルフィーも掛かってくるかもしれませんが、私たちの仲間にもブランディングがとても得意な人がいますので、もう少し検討がすすめば詳細をご説明できるかなというところです。

浅岡幹事長：実際にはなかなかまだ見えていないところが多いのかなと思うので、ロゴを作るだけでもデザイナーに頼んだりすると40～50万円とかかかるので、コンサルフィーだとかの費用が掛かるのであれば、その辺は抑えめかなとも思うんですけれども、早急に詰めて頂いて、手弁当で出来るものはして頂いて、是非来年度以降はこの中で、いい運営をして頂ければと思います。

事務局・矢口課長：それを目指していきたいと思っております。

かわさき生活クラブ生協・福本：一応この100万円も現実的なのかどうかは、このサンプルを作っているところと相談して一応現実的な金額というところで決めております。

浅岡幹事長：一点確認なんですけれども、「海の豊かさを守ろう分科会」というのは、これはプラットフォームか何かの分科会ですか。

かわさき生活クラブ生協・福本：ゴールドパートナーの中のプラットフォームの分科会でして、そこで今そういう取組をやっています。そのときも分科会として関わるのか、その中にいる団体・企業さんが関わるのかというところの整理はまだ一切されてきてはいないんですけれども、そういう面白い試みをやりたいと思っております。

大西委員：多摩、麻生では今後、団体として加入されるというご説明がありましたが、令和6年度の実施はもうない、ということになるのでしょうか。

かわさき生活クラブ生協・福本：今、実際に団体は増えないまま、この前、SUPERNOVA KAWASAKIで一度、グロウガーデンの企画をやった際に、麻生区の農家さんと一緒にグロウガーデンみたいな事を始めるといった、営農活動をしているんですけれども、また新しく畑が借りられるとなつて、グロウガーデンみたいにしていきたいと思った方がいました。実は私たちの生活クラブの仲間なんですけれども、そことSUPERNOVA KAWASAKIの方と出会いまして、この緑化フェアの川崎区で必要なコキアという植物をその農家さんのところで育ててもらいたいといった話になりまして、麻生区の農家さんのところでもグロウガーデンが出来たらなつていう話が進んでいます。次回までに整理して、こちらにご報告させていただければと思っています。

大西委員：そうすると、予算のトータルは変わらずに、提出された年間計画の予算額の使途、内訳が変わるといった可能性はあるという事ですね。

かわさき生活クラブ生協・福本：選択肢として、それを組み替えた方がいいのか、増やして頂けるのかというのは、是非、お諮りしたいです。

森 委員：ここで了承したら本件の取組みが進むという前提の話し合いという事でいいですよ。前回の幹事会に出席できなかったので細かい点まで把握、認識しきれていませんが、総論は賛成です。こういった取組みは確かに川崎においてとても大事だと思いますし、関係される方々が時間をかけて練りに練った案だと思うので、一つ一つの企画について違和感はないのですが、それにかかる予算が果たして適正なのかという点についてはやや疑問が残ります。

全体予算の中で、この企画に1,500万円をかける意味や価値がどこまであるのかという点は悩ましく、今回のこの説明だけで1,500万円を使うということに対して、素直に賛成ですとい

うことはなかなか難しいと感じました。この取組みが来年度以降どのようにつながっていくのかという点が現段階で見えないことも、抵抗の原因になっているのではないかと思います。

浅岡幹事長：仕事柄考えるとごもっともだなと思います。今の説明でお金を掛けるかと言われてたら、貸さないみたいな感じですが、全体感の中での予算配分でご理解を頂くということと、内容についての見積もり合わせとか、そこまでこの場で議論という事ではなく、そこは事務局で当然、市の基準に準じた形でご準備を頂いていると理解をしております。確かに1,500万円が正しいのか、1,000万円なのか、500万円なのかという判断基準はどこにあるかと言われますと、はっきりとは私もないということにはなるんですが、この一年間のお話を聞いてきた中で全体感と合わせて大体こんな規模感かなというような、そういった基準くらいしかないというのが実態だとは思っております。事務局の担当部長の方から何かご意見はありますか。

小池事務局長：今回、幹事会に諮らせて頂きたい点は、このような枠の中でこういった事業をやっていききたいということでございます。実際に具体の金額に関しては、しっかりと詰めたものの中でお支払いをしていくというような形には考えてございます。

先程来、森さんからもお話し頂いたように、その先を見据えた取組をしていく中で、この実行委員会の主催事業自体は我々、負担金で全てを賄って運営するというものではなくて、それぞれの事業者さん、仲間の方が半分負担して、それを将来につないでいくための2分の1負担という考え方でやっているところでございますので、今この金額につきましても最後のところではありますが、全体事業費の半分について実行委員会から負担するという事で、その残りの半分に関してはやって頂く事業者さんがしっかりこういう事をやりたいというところで動いて頂いているので、取組の内容自体はかなりみどりをまちなかに普及させていく取組として素敵なものだと思うので、そういう事業者さんのやる気と内容については実行委員会としても応援していきたいと考えてございます。実際の支払いにつきましても、繰り返しになりますが、しっかり中身を見たものをお支払いするという形にはなっておりますが、こういったところで取組自体をご承認頂けると幸いです。

浅岡幹事長：支出の支払い、支出の流れとしては、ここにご提案がありました、このくらいの予算でいきます、実施をしました、中身はこうでした、元の話と違っていけば減額もしくはゼロという可能性もなくはないという、あとからの審査を経た上で募集という形ですか。

小池事務局長：今回、協定を結んで取組を進めていくんですけども、その中でこの全体の負担金の枠と申しますか、この金額内で負担出来ますよという形で協定は結びますが、それを実際にお支払いするときには内容が適正かどうかの審査、確認をした上で支払いという形になりますので、その中身がまったく違うものに使われてたという事であれば、支出はできません。

森 委員：一つ一つの企画に関する支出については事務局にお任せするという前提で、この予算規模の枠を承認する、しない、ということですね。

小池事務局長：はい、そのような形です。

大西委員：各事業は自走化していくという事が大前提なので、そうなってくると、今後は今回の予算の半分で自主運営していくということになると思います。これは可能なのでしょうか。

かわさき生活クラブ生協・福本：現在9団体ありまして、それぞれがどうグロウガーデンを自走化させていくかという事は各自検討をしているところです。

今、私たちがイメージしているのは、各団体の内容はそれぞれに責任を持って来年度以降も進めてもらいますが、それへの支援、人材や協賛金などを「グリーンハックかわさき」が中間支援組織のような、調整役の団体にしたいと思っています。

自走してそのグロウガーデンがこれから何年先まで続くかは、一つ一つのグロウガーデンごとに異なってくるのかなと思います。ただ、こういったグロウガーデン、トラックガーデンという取組を続けて、川崎市にみどりがあふれ、そこに人がたくさん集まってコミュニティ豊かに暮らしていくというような事業をやっていく団体を自走させていきたいと思っています。

これは私の意見になってしまうのですが、NPO法人なり、一般社団法人なりのようなものの会費制でその事業はしていきますけれども、それを発展させていくために応援してくれる協賛企業を集めて、それが例えば、「私は高津区をとにかく応援したいんだ」みたいな企業さんでしたら、それは高津区の団体とくっつくように支援したりだとか、そのような形で来年度以降、事業として持続可能な形でやっていきたいと考えています。

小池事務局長：100周年の事業そのもの的なところもあるんですけども、この初年度、令和6年度につきましては、その先を見据えて、まずはきっかけづくりといいますか、スタートのところは我々の方も負担金という形で応援していくというふうに考えています。それを踏まえて、まずは一回やってみる。先程ブランディングの話もございましたが、そういったところで一回やった事をプラスアルファしてブランディング等を整えていって、広げていながらまたそこで協賛なり仲間を集めていく。そのスタートにしていきたいというのがこの1年目の動きかなと思っていますので、今年しっかり成功させて、来年に向けてまたPRをしっかりしていく、継続を検討していく、そんな考え方かなと思っています。

浅岡幹事長：基本的な考え方としては継続性を重視はするけれども、それも担保出来るものではないかなと、そこに蓋然性がどれだけあるかというのが一つの考え方なんだろうと思っていますし、初めからあまりかっちりやってしまうと参加して頂けないとか色々難しい話もあるんだろうとは思いますが、そこは意識をして頂いて、お金があるときだけしか出来ない枠組で安易にという事のないようにというのが皆さんのご意見かなと思います。

とはいえ事業ではないので、なかなかお金を出す側の企業もリターンを期待してという訳ではなかったりする部分もあるかと思いますが、儲かるからやるという事業ではないということで、参加する側の思いきりも必要なので、きっかけが必要ということもあるかとは

思いますので、その辺の兼ね合いかなとは思いますが。
皆様、御意見ございますでしょうか。

一同異議なし

今日出ました委員からのご意見を踏まえながら、是非来年度以降もなるべく予算を見据えながら、ずっと継続出来るような形で進めて頂ければと思いますので、承認させて頂きたいと思います。

議案第3号：かわさき飛躍祭について

一事務局より資料4を用いて説明

内藤委員：開催日が梅雨のど真ん中なので、天気が良く、飛躍できる会を開催できることを本当に祈ってます。イベントを色々なところでやってる自分もそうなんですけれども、もう天気が命なんです。だから、それこそ危険のない中で、みんなに出来るだけ楽しんでもらえるように、仮に雨が降ったときでもこういった内容で楽しめるという部分を押さえつつ、開催していただければと思います。日程は変えられないと思いますので、ただそこだけです。

事務局・金井課長：本当に雨に弱めのイベントということになりますので、雨が降った場合の周知の仕方をしっかりやっています。

内藤委員：コンサートは雨でもやりますよね。

事務局・金井課長：警報が出るなどの荒天以外は実施してまいります。

浅岡幹事長：ブルーインパルスは、さすがに雨では出来ないでしょう？

事務局・金井課長：ブルーインパルスについては雨だからといって一概に中止になる訳ではなく、どちらかと言うと雲の量で、視界が大事だということで、航空自衛隊の基準にて飛行の可否は判断してもらいます。

昨年度実績で言うと、20回中1回中止になったということで、今年度は最初の山口であったものは中止になっておりますが、是非実施できるように、そこはお天気祈りになります。

大西委員：予算のところですが、金額は変わらず当初予算のままという認識で良かったでしょうか。

事務局・金井課長：金額の2,500万円部分は変わらなくて、ただ、今回は従前の要綱ですと2分の1負担を適用出来ないなので、要綱を改正して、そのご承認を頂きたいというところがございます。

大西委員：もう一点、音楽フェスについて。我々のほうに質問が来ている内容として、野球場は場外からフェンス越しに中が見えてしまうと思うんですけども、それは、当日何か対策されるのでしょうか。教えてください。

事務局・金井課長：センターの後ろの方に階段があって、そこからは中が見えてしまいますので、そこを登れないようにして、外からは見えない状態にします。

北嶋委員：協賛企業にはチケットは配布されるのでしょうか。

事務局・金井課長：協賛特典のメニューとして当初から用意はしておりませんので、あとから追加となると、これがあるなら協賛していたのに、ということもあるかもしれませんので、協賛特典としての提供はいたしません。

内藤委員：チケットは当日販売も、当日買うことも当然出来るという事ですね。

事務局・金井課長：売れ残った場合は当日販売になります。

浅岡幹事長：ご意見はよろしいですか。それでは、承認でよろしいでしょうか。

一同異議なし

それでは承認といたします。

議案第4号：音楽プロジェクトについて

一事務局より資料5を用いて説明

内藤委員：企業協賛とクラウドファンディングは予算の半分以上を占めていますが、集まらなかった場合はどうなりますか。

事務局・池田課長補佐：企業協賛やクラウドファンディングが集まるかについては、プロジェクトメンバー内でも一番大きな問題となっています。ただ、実行委員会の負担金としては「2,500万円を上限」というルールをお示ししておりますので、協賛金が集まらなかった場合はプロジェクトメンバーの中で対応をするということでした承は得ております。

浅岡幹事長：ちなみに本事業は事業費の2分の1ルールは適用されるのでしょうか。

事務局・池田課長補佐：2分の1は適用されます。

浅岡幹事長：事業費が減れば相応の2分の1になるので、4,000万円になれば2,000万円の上限に下がるという理解でいいでしょうか。

事務局・池田課長補佐：はい。例えば、集まらなかったのも、この規模のステージは無理だという事で、4,000万円で出来るものにしようという事でしたら上限額は2,000万円ですし、3,000万円であれば1,500万円という形になります。

北嶋委員：ステージの建設・設計は6,600万円なんですけれども、このステージは今後そこにあるという事を前提で、今後、例えば出演する際のアーティストの出演料というのは収入として考えていらっしゃるでしょうか。

事務局・池田課長補佐：100周年事業自体が、100周年を機にレガシーとして継続を目指すという趣旨ですので、令和7年度以降は本格的に協議会の方で運営して出展料だったりとか、あとは企業の協賛を継続して得ながらステージの運営を図っていくという事になります。

浅岡幹事長：最低限、維持費くらいは賄えるようになりたいですね。

事務局・池田課長補佐：はい。維持管理経費もそれなりにかかります。皆さんの思いとしては、溝ノ口を素敵なおしゃれなまちにして、みんなが来たくくなるようなものを目指すというものがございます。ただ普通のものを作るのではなく、かっこよくしていきたい、リーダーの五十嵐さんはアーティストの方なので、その熱い思いがあって、溝ノ口をすごく素敵なおしゃれなまちにしたいという思いからこうやって動いているという事で、それに賛同している方が集まって動いている状況でございます。

大西委員：今回の事業費のところですが、6,600万円が必要ということですが、資料にあるステージの絵コンテをみると、これはあくまでもイメージだと思いますが、下の木の台、ステージの床面以外には何か設置するものはあるのでしょうか？常設ステージで今後も長期間置き続けられて、雨風に強かったり、木の腐食防止など設計はいろいろと工夫をされているのだと思います。

事務局・池田課長補佐：こちらは、周りの植栽的な装飾なども含めております。

大西委員：先ほどのお話の中で、協賛およびクラウドファンディングで必要資金が集まらなかった場合は、必要経費は主要企業の4者で持ち出すということになると伺いました。そういったことは本当に可能なのか？その想定もプロジェクトメンバーに確認されているという理解でよろしいでしょうか。

事務局・池田課長補佐：こちらの幹事会にかける前に、この金額的なものが肝になってきますので、そこは確認を取っております。ですので、例えば2,500万円を3,000万円して下さいというのは出来ないことを説明しています。

大西委員：あと、維持管理について質問です。起こりがちなケースとして、維持管理する人や会社がいなくなったり、ゆくゆく費用負担について問題になることがあると思いますが、その辺りの計画はありますか。

事務局・池田課長補佐：具体的な計画については詰めきれていませんが、来年度以降も維持管理が必要という事で、道路公園センターなどと調整をしているところでございます。やはり維持管理が肝で、作ったはいいけれども、すぐに廃れてかっこ悪いものにしたくないという思いが皆さんにありまして、音楽ステージではないときには憩いの場になるような空間を目指しております。

浅岡幹事長：なかなか課題は尽きないとは思いますが、尖った事をやろうとすると色々難しい問題も出てくるとは思います。あの場所は道路の上の扱いになるんでしたでしょうか。

事務局・池田課長補佐：道路という取り扱いです。道路上にこういったものを設置するというチャレンジな試みとして道路管理者と協議しながら進めている状況でございます。

ただ、国も市も、道路も憩いの空間に活用出来るという大きな方針がありますので、それに則って、川崎市で、高津区で最初にやる、いい前例になるようにという事でチャレンジしていく次第でございます。

浅岡幹事長：それだけに民間企業から見るとなかなか出来るものではないだろうなあと思いますので、そういった意味では、このチャンスというふうな印象も持ち掛けた方がいいかもしれませんね。

森委員：この維持管理費は、いつからいつまでの期間が対象なのでしょうか。

事務局・池田課長補佐：1年ごとの維持管理となっております。

大西委員：1年というと、スタートが11月ということなので、年度はまたぎますが来年の11月迄ということなんでしょうか。

事務局・池田課長補佐：年度単位で維持管理をすることになると思いますので、その辺りは確認します。

小池事務局長：ハード整備のところですが、屋根も設けたいという意向もありまして、少しそこで金額が大きくなっているところがございますが、お金の状況を見ながら、屋根を設置するのかどうかというところは検討する必要があるかなと思っております。

内藤委員：当然考えられているんでしょうけれども、設置年だけではなくて、次年度以降どういう維持管理とイベントの収入とを組み上げていくのか、減価償却が10年なら10年を見据

えた計画を作っていただきたいと思います。作って終わりではないと思うので。

荻野委員：資料をみますと、この辺りには点字盤などもありますが、目の見えない方への配慮についての予算については考えていらっしゃるのでしょうか。

事務局・池田課長補佐：そちらも点字ブロックをどうするかといった具体的な話も道路公園センターとしております。道路公園センターや警察からは、皆さんにとって安全に工事が行われるようにと言われておりますので、その辺りも配慮しながら進めていきたいと思っています。

森委員：このステージは、「ここから未来プロジェクト推進協議会」の持ち物ということになるのでしょうか。

事務局・池田課長補佐：占用をするというような形になります。

浅岡幹事長：道路上の設置物になる。地面は占有している。ただ、物の登記と違って、道路上の物としてはどういったものになるのでしょうか。

事務局・池田課長補佐：具体的な話ですけれども、イベント専用として長期間占用するという形にいたします。

浅岡幹事長：公共のものというように、川崎市の財産という形ですか。

小池事務局長：今、池田が言いましたように、それが道路の付属物というもので川崎市に寄付される、移管されるというのではなくて、地べたの上に事業者さんが物を置くというような形になるので、川崎市の所有にはならない形で検討しております。

ですので、維持管理費も含めて、そういったところがかかなり出てくると思うので、先程もありましたが、この協議会というものをこれから発足して将来の運営、それから維持管理についてしっかりとプランを練った上で工事というところまで進めていく必要があると思っています。

森委員：この取組みが成功することが望ましいことではありますが、現時点では確実なことは言えませんので、これだけ大きなものを相当の費用をかけて作ったあとに何らかの理由で撤去しなければならなくなった場合に、どこがその費用を持つのかという点は少し気になりました。

小池事務局長：確かに今、制度等を活用しながらというのがあるんですけども、これがまだ川崎市としてはスタートしていない制度をこれから実証実験しながら検討していくという形になります。

なので、少しリスクはある事業ではあるので、そこはミニマムなスタートをする事が必要

かなと考えていますので、今日頂いた意見も踏まえて、しっかりこれから協議会となる方とも意見交換しながら、リスクをしっかりと考慮して、その上で適切な設置、そして適切な運営等を考える必要がある、非常にリスク自体はあると思っています。

浅岡幹事長：道路占有物が万が一管理されなくなったら管理者、川崎市が最後撤去しなければならなくなると思いますので、許可を出されるのであれば、そういったことも含めて検討していただければと思います。

事務局・萩本係長：現在、管理規定などを作っております、色々と徴収することも考えてございます。

また、トータルコストの中には、仮にこの制度がうまく川崎市と連動出来なくて撤去しなければいけないという事も見越して撤去費を計上しているものになってございますので、撤去になればプロジェクト側で負担するという作りにもなってございます。

ですので、そのコストも見ながら、最終的に外からクラウドファンディングや協賛金が集まらなかった場合、スケールダウンさせて最終的な設置・撤去までを考えた上で計画を進めていこうと思います。

浅岡幹事長：多分、それは協議会が存続している間に撤去という話になればということだったと思うんですけども、例えば10年後もう協議会がなくなって、雨ざらしになって、劣化して危険となった際、その撤去費がどこに残っているかというのが不安になります。そのときもどこかにお金を残しておいていただけるんですか。

事務局・萩本係長：おっしゃる通り10年後に撤去に掛かるお金が残っているかというのは、現段階ではそこまで議論できていないので、今後考えていかなければならないと認識しております。

浅岡幹事長：少なくとも実行委員会の事業としてやっている間は設置・撤去まで想定した作りになっているということですね。

事務局・萩本係長：はい。

浅岡幹事長：他に御意見はございますか。

そうしましたら、出た御意見をそれぞれ御検討頂きながら、進めて頂ければと思いますので、よろしくをお願いします。

議案第5号：「脱炭素」プロジェクトについて
一事務局より資料6を用いて説明

浅岡幹事長：予算については、特に審議はなんですね。

小池事務局長：はい。前回、前々回で事業費の方は御説明させて頂いてますので、本日は具体的にやる内容の事前報告といたしますか、そういったところについてのご報告という形です。

浅岡幹事長：そういう事ですので、内容についてのご意見という事でお願い致します。ございませんでしょうか、よろしいですか。それでは、この方向性で進めて頂ければと思いますので、よろしくお願いします。

議案第6号：まんなかフェス2024について

—事務局より資料7を用いて説明

北嶋委員：パレードについてです。資料に記載のあるこのルートでのパレードは、過去に事例がなく初というのがこの取組の肝だと思いますが、ルートはこの地図通りでよろしいでしょうか。

事務局・塩沢職員：ルート案としましては、現在こちらの方向で警察等々と協議を進めていくという仮定の段階でございます。

北嶋委員：こちらの地図で提案された通りで、協議をしていくんですね。今後また変更するようなこともあるという事でしょうか。

まんなかフェス・関川：可能性としては考え得る事ではあるんですけども、警察協議が今週の金曜日がスタートでして、こちらと周りのマンションの方々ですとか地域の方々にご挨拶回りをしながら、ルートは確定させていきたいと思っております。

ご提案のときは、こちらのルート、プラスアルファA案、B案、C案みたいところで、それぞれ私どもとしてはプランを持っておりまして、それをもって、一番の希望はこれだけでも、いかがでしょうかというような形で、それぞれ地域の皆様にお諮りしていくような形を考えております。

その精査が最も大事かと思っております、私たちのパレードをするときのそういった関係各所との調整ですとか、今後のことも踏まえて、パレードルートに入っている方々との関係性を作っていくところも非常に重視しております。

北嶋委員：そうですね、仲間を増やしていくということなので、出来れば是非範囲を拡大して100周年を盛り上げて頂ければと思っております。警察等との調整に時間が掛かるという事を存じていますので、是非頑張ってください。

浅岡幹事長：パレードって他の団体もやっていたよね。審査の際のプレゼンでは、今回パレードのエリアを拡大するとおっしゃってたと記憶しているのですが。

まんなかフェス・関川：当団体ではなく、過去に違う団体、まったく違う団体がこの小杉エリアで実績があるというのは認識しております。

浅岡幹事長：「まんなかフェス」としては初めてやるのでしょうか。

まんなかフェス・関川：はい。

浅岡幹事長：そうすると、ルートもまったく新規のものになるのでしょうか。

まんなかフェス・関川：過去にこれよりもちょっと短いルートで他の団体さんがやっていたという実績は私どもの方でも知っているんですけども、そのルートがどうだったかは、今は定かではないです。

浅岡幹事長：なるほど。何が言いたいのかというと、既存でやっていたところに実行委員会から負担金を出すとなると、これまでとは違った記念事業としての付加価値は何ですかと、そういう議論になると思うのですが。

まんなかフェス・関川：なるほど。全然違う団体、過去にハロウィンのイベントをされていたようなんですけども、もう数年、コロナ禍に入って以来、継続が出来ないというところでやっていたらいいと思います。

私どもとしては100周年の記念をハロウィンという仮装に限らず、市の皆さんが衣装を着たりとか、楽器を鳴らしたりとか、そういったところで参加出来るようにするという事で、今回このプランを出した次第です。

浅岡幹事長：そうすると、パレード以外の付加価値は、特に過去の既存のイベントとの違いはないというふうに考えていいですか。

まんなかフェス・関川：それぞれ私どもの過去のイベント、1年ごとに内容が少しずつ異なっていて、地域の皆さんや提携する先、実はその年の事情によって変えてきておりまして、昨年度でしたらグランツリーさんと一緒に開催をしてみたり、今年はパレードとサード・アヴェニューさんでしたりとか、そういったところと少しずつ、そのときの状況に応じて内容をバージョンアップするような形で進めております。

浅岡幹事長：まず、その辺りの考え方かなと思いました。内容が既存のイベントだけだと、実行委員会からの補助は難しいかなと。先程、事務局からお話があった総事業費の2分の1というところですね、その部分が2分の1でいいのかということだとか、そういった部分も実際にはあろうかと思うんですが、パレードの実現可能性ってどのくらいありますか。今から警察との協議を始めるとなると、かなり厳しいと思います。今、その感触みたいなものはありますか。

まんなかフェス・関川：ファーストコンタクトが明後日ですので、まだ何ともなんですが、パレードエリアの図面を用意したりして、それぞれ地域の方々にお伺いしたりとかをした上で一緒に行って頂くとか、そういった準備は進めています。

内藤委員：駅前もエリアに含まれていますので、車を入れないという形になると、警察協議は相当大変だと思います。

まんなかフェス・関川：そうです。時間もかなりタイトに絞ってございまして、開催時間のところだけ…。

内藤委員：いや、駅の流入を全部止めるということなので。

まんなかフェス・関川：非常に協議先は多岐にわたるなというところは認識しておりまして、それぞれの協議先はどこだとかそういったところも調べた上で進めております。

協議のアポイントメントの依頼を実は5月中から進めているんですけども、なかなかスケジュールが合わなくて、実際にお会い出来る日を取れたのが6月の今週の金曜日だったというところで、打診自体は5月にそれぞれ進めております。

浅岡幹事長：やはりそれだけの規模になると普通、年単位で話をするのがいいかと思います。警察も話を聞いて唖然としているかもしれないなって、思っていました。

小杉駅の周りを止めるというのは相当のことだと思うので、バス事業者との協議もありますし、このエリアでの実績がないので余計、実現可能性はどうなのかと。

森 委員：細かい話にはなりますが、支出のところに書いてある報償費320万円とは何でしょうか。

まんなかフェス・関川：パレードについてはクオリティをある程度担保するために市民参加とは別に、プロやセミプロの方も呼び出す予定なので、その方々に出す報償金となっています。

森 委員：パレードの実現が難しいとなったときには、この予算の組み立て、使い方も若干変わってくるということになりますか。

まんなかフェス・：パレード自体は何らかの形で実施出来るように考えておりますので、ゼロにはしない方向でメンバーでは考えております。今、ぐるりと一周回っていますが、ストレートの一直線の部分は既に何年か道路を止めた状態で実施はしておりますので、パレードは何らかの形で実施出来ると想定しています。ルートがどうなるかというところは私たちの努力次第というところだと思うんですけども、パレードの開催自体はしようと考えております。

森 委員：パレードの企画は第7回という事であり、過去6回分の様々な経験がおりだと思しますので、新たな取組みを加える難しさはあるでしょうけれども、将来につながるような形で実施していただければと思います。

このフェスは年に1回だと思いますが、一般社団法人化したときには是非内容を拡充して、永続的な取組になっていくといいなと思いました。

内藤委員：令和7年以降は、当然ながら負担金がないので、ない中でどのようにやっていくかという部分を、来年度以降を見越して、色々検討していただきたいと思えます。

7年度以降は、負担金で賄っていた部分は縮小もしくは資金を別に用意しなければいけないので、同じ規模の協賛金を集めてやっていくという方向性なのか、その辺のところを色々検討・検証してもらいたいと思えます。こういうイベントって多分、立ち切れにならずに続けて、初めて皆様の認知度が上がっていくことだと思えますので、そういう観点で色々末永く検討してやって頂きたいと思えます。

若井委員：駅前のパレードとなると、すごい大変だなと思えますので、みんなで盛り上げていって、盛り上げられて、初めのパレードはちょっと小さくても、みんなで出来る事をみんなでやっていき、いつか駅前を止めるくらいの大きなパレードに発展していってほしいと思えます。

以前、僕らがカワサキハロウィンをやっていたときは、それこそ最初はチネチッタ通りから銀柳街、銀座街行って帰ってくるという歩行者天国のところだけからスタートしてやっていて、一般の車道を止めるのは結構大変だと実感していますので、事故のないように頑張ってください。

浅岡幹事長：大体ご意見は出尽くした感じでよろしいですか。

ただ、負担金の審査については、別の観点があります。そもそも審査会での条件というのがあるので、やれば良いという事ではなく、提案時の内容の実現を目指していただき、内容によっては補助金の額が減額されるという事をご認識頂きたいので、よろしく願います。

それでは承認とさせていただきます。

議案第7号：子ども力で川崎の未来を変えるプロジェクトについて

浅岡幹事長：継続性が一番肝になるのかなと思えますが、今回は予算の半分を実行委員会が負担しますが、来年度以降なくなっても維持は可能という事でしょうか。

田園調布学園大学・番匠教授：もうこの活動は20年間続けておりますので、今回、実行委員会からの負担金で、今まで以上に中身を厚くイベントを実施しますが、同クオリティかどうかはちょっと保証出来ませんが、同じような事は今後も本学を中心に続けていく予定です。

中山委員：子ども会議の参加者は、もう集っていらっしゃるのでしょうか。

田園調布学園大学・番匠教授：現在まだ募集中なんですけれども、毎年100人程度は集まっていますので、今年も同程度は集まるかとは予想しています。

浅岡幹事長：他に御意見はございますでしょうか。

それでは、このまま進めていただければと思います。

3 報告

報告第1号：実行委員会第4回総会の開催結果及び第5回総会の開催について

報告第2号：実行委員会参画団体主催事業・パートナー主催事業に関する取組状況について

報告第3号：協賛状況について

報告第4号：市制100周年の広報について

報告第5号：市制100周年記念式典について

—資料9～13について事務局より報告

4 その他

今後のスケジュールについて

—資料14について事務局より説明

5 閉会

以上